

「最近の機械貿易動向(9月)～機械輸出伸び率20ヶ月ぶりマイナス～」

平成30年9月の機械輸出額は4兆3,374億円、対前年同月比1.7%減と、20ヶ月ぶりでマイナスとなった。これは、9月の営業日数が2日少ないことが大きな要因となっている。地域的には、プラス成長が中国、ASEAN・南アジアの2地域向けのみであり、業種的には、全21業種のうち、自動車、産業機械をはじめ14輸出業種がマイナスとなった。為替・営業日要因が9.4%の減少寄与要因だったことを考慮すると、実質的な伸び率は7.7%増となった。平成30年10月の為替・営業日要因は4.9%の増加寄与要因となっているが、11月19日発表の貿易統計速報による簡易計算では、10月の機械輸出は7.8%増であった。

I 要約

1. 全商品貿易動向(図表1)

- 1) 全商品輸出額:6兆7,194億円(前年同月比 [以下同じ] 1.3%減、22ヶ月ぶりマイナス)
- 2) 全商品輸入額:6兆5,881億円(7.0%増、6ヶ月連続プラス)
- 3) 貿易収支:1,313億円の黒字

2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向(図表2)

- 1) 機械輸出額:4兆3,374億円(1.7%減、20ヶ月ぶりマイナス)
為替・営業日要因を除いた実質的伸び率:7.7%増(2ヶ月連続プラス)
- 2) 機械輸入額:2兆699億円(0.5%減、3ヶ月ぶりマイナス)

(2) 為替・営業日動向

2018年9月に9.4%の減少要因、10月に4.9%の増加要因、11月に4.5%の増加要因となる。

(3) 地域別動向

- 1) 中国、ASEAN・南アジアの2地域向けのみがプラス(図表4、5)
- 2) 北米向け:0.3%減、再びマイナス(図表4、5)
- 3) 中国向け:0.1%増、7ヶ月連続プラス(図表4、5)
- 4) ASEAN・南アジア向け:2.3%増、22ヶ月連続プラス(図表4、5、6、8、9)
- 5) EU向け:6.7%減、4ヶ月ぶりマイナス(図表4、5)
- 6) 韓国・台湾向け:7.0%減、8ヶ月連続マイナス(図表4、5、6、7)
- 7) その他地域向け:2.8%減、15ヶ月ぶりマイナス(図表4、5、10)

(4) 業種別動向(図表11)

上位21業種中7業種がプラス。そのうち3業種が二桁の伸び

(5) 機種別動向(図表12、13)

- 1) 陸用内燃機関(北米、EU、中国向け中心、2ヶ月連続上位)、船舶(その他地域向け中心、2ヶ月連続上位)、時計(中国向け中心)、工作機械(北米、中国、ASEAN・南アジア向け中心)等が大きくプラス
- 2) 通信機械部分品、原動力機械、発電機等が大きくマイナス

(6) 機械輸入動向(図表14)

- 1) 機械輸入額上位12機種のうち、5機種がプラス
- 2) そのうち携帯電話、乗用車、半導体製造装置の3機種が二桁以上のプラス

II トピックス

1. 【インドネシア】自動車販売が好調。中国メーカーの進出も加速

インドネシアの2018年8月の新車卸売販売台数は、前年同月比5.2%増の10万2,197台と好調だった(2018年1-8月の8カ月間の累計では、前年同期比6.9%増の76万3,336台)。順調な経済成長を背景に、インドネシアの自動車市場は成長を続けており、2017年の新車販売台数は107万9,500台と東南アジアで最大となった(8月のタイ、マレーシアの自動車販売の伸びは、それぞれ27.7%、8.5%と好調だった。また、インドネシアは有望な成長市場であり、日本車が約8割のシェアを誇っている。)

注目されるのが、中国自動車メーカーのインドネシア進出である。上海汽車・GM合弁の上海GM五菱汽車は、2017年後半にインドネシアに参入、ミニバン「コンフェロ(Confero)」を投入した。低価格を強みとして、販売を拡大している。さらに、インドネシア全土に販売網を広げている。また、東風汽車と地場企業との合弁である東風小康汽車(DFSK)は、2017年にバンテン州に工場を開設し、このほどSUV「グローリー580」を発表した。

インドネシア自動車製造業者協会(GAIKINDO)は、2018年の販売が110万台に達すると予測している。しかし、ここに来て通貨ルピア安(1ドル=1万5,000ルピア台まで下落)が進行、金利上昇の懸念もあり、下半期の販売が減速する可能性も出てきている。

2. 【インド】タタ傘下のJLRが中国での販売減により生産を一時停止

タタ自動車は、傘下のジャガー・ランドローバー(JLR)の2018年9月の中国での販売台数が46%減となったことに伴い、英ソリフル工場での生産を10月22日より2週間停止すると発表した。

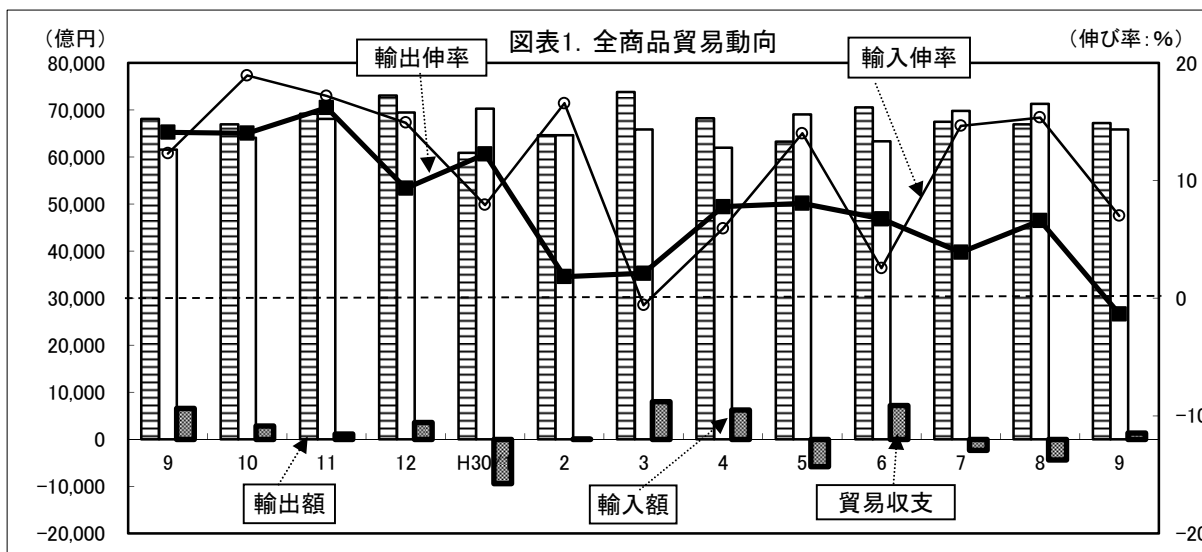
中国では、米中貿易摩擦による不透明性から自動車需要が落ち込んでいる。また、JLRはドイツなど欧州市場でも落ち込み、9月の世界市場での販売は12%減となった。これを受け、タタ・モーターズの株価は大幅に下落している。さらに、JLRにとっては、英国のEU離脱に伴うサプライチェーンの混乱も大きなリスクとなっている。

米中貿易摩擦による中国自動車市場の減速(3カ月連続で減少)は、欧米メーカーに大きな影響を与えている。独VWは、9月の中国での販売台数が10.5%減の27万7,800台に落ち込んだ。米GM、フォードも大きく落ち込んでいる。日本勢では、トヨタは前年比で増加したが、日産、ホンダなどはマイナスとなった。

Ⅲ 個別動向

1. 全商品貿易動向～輸出は22ヶ月ぶりマイナス、輸入は6ヶ月連続プラス～

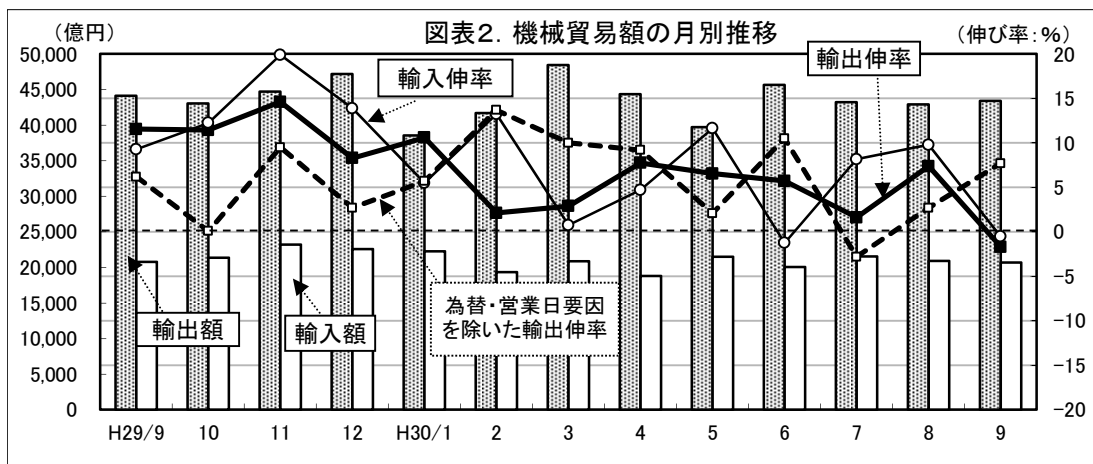
- 1) 平成30年9月の全商品輸出額は**6兆7,194億円**、前年同月比(以下同じ)**1.3%減**と22ヶ月ぶりにマイナスとなった(8月6.6%増)。これは、全輸出額の約23%を占める輸送用機器(2.2%減)をはじめ、約18%の電気機器(2.6%減)、鉄鋼・非鉄金属等原料別製品(2.3%減)等がマイナスとなったためである。
- 2) 輸入額は**6兆5,881億円**、**7.0%増**と6ヶ月連続でプラスとなった(8月15.3%増)。これは、全輸入額の約24%を占める原粗油等鉱物性燃料(42.1%増)をはじめ、約10%の医薬品等化学製品(4.2%増)、約9%の原料別製品(2.8%増)等がプラスとなったことによる。
- 3) この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は、約1,313億円の黒字(8月は4,384億円の赤字)となった。



2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向～輸出は20ヶ月ぶり、輸入は3ヶ月ぶりにマイナス～

- 1) 全商品輸出額の約65%を占める9月の機械輸出額は**4兆3,374億円**、**1.7%減**と20ヶ月ぶりにマイナスとなり(8月7.4%増)、その水準は、リーマンショック前(2007年9月)と比べると**86.4%**となって、前月に比べて8.7ポイント悪化した(8月95.1%)。なお、為替・営業日要因を除いた**実質的伸び率は7.7%増**であった。
- 2) 一方、全商品輸入額の約31%を占める機械輸入額は、**2兆699億円**、**0.5%減**と3ヶ月ぶりにマイナスとなり(8月9.8%増)、リーマンショック前(2007年9月)の水準に比べ、34.5%増となっている。

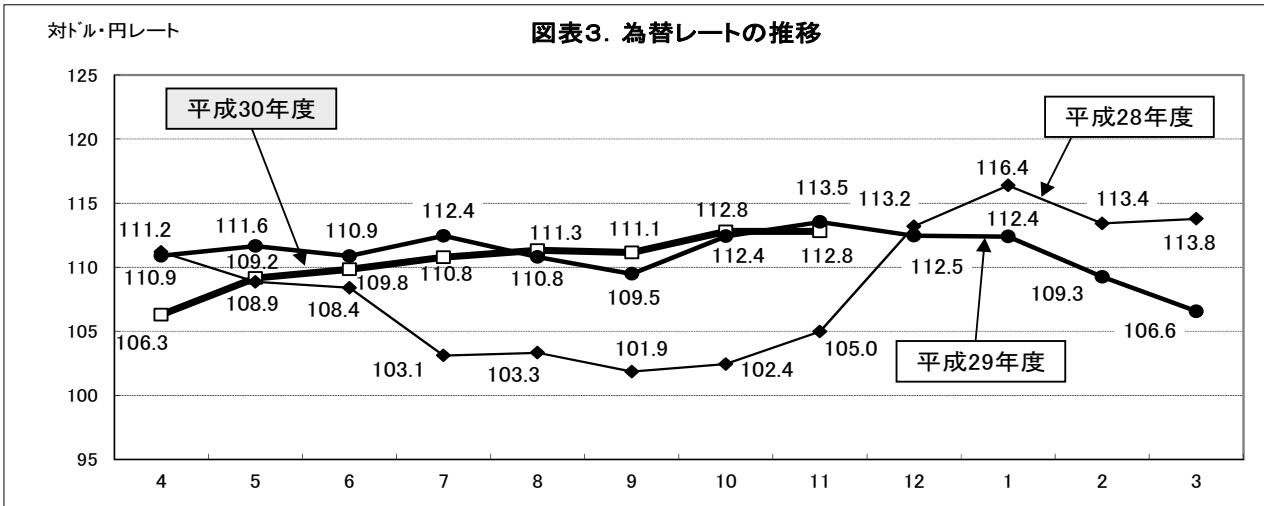


(2) 為替・営業日動向～9月は9.4%の減少要因、10月は4.9%の増加要因～

1) 2018年9月は1ドル=111.1円となり、前年に比べ1.5%の円安となった。また、対ユーロは129.0円と前年に対して0.9%の円高となり、合わせて約0.7%の為替増加要因となった。営業日は前年に比べて2日少ないため、約10.0%の減少要因となり、合計で約9.4%の減少要因となる。9月の輸出額は1.7%減であったことから、実質的伸び率は7.7%増と2ヶ月連続のプラスとなった(8月2.7%増)。

2) 2018年10月は1ドル=112.8円で前年比0.4%の円安、対ユーロは131.0円で前年比1.5%の円高となり、合わせて約0.1%の為替増加要因となった。営業日は前年に比べて1日多いため、約4.8%の増加要因となり、合計で約4.9%の増加要因となる。

3) 2018年11月は、対ドルが11月21日17:00時点の112.8円とすれば、0.6%の円高、また、対ユーロは128.5円で3.2%の円高となり、合わせて約0.5%の為替減少要因となる。営業日は前年に比べて1日多いため、5.0%の増加要因となり、合計で約4.5%の増加要因となる。



(3) 地域別動向～中国、ASEAN・南アジアの2地域向けのみがプラス～

1) 機械輸出額の地域的動きをみると、①全体の24.9%を占める北米向けでは、航空機部品(9.3%増)がプラスとなったものの、全体の約51%を占める自動車(1.2%減)や産業機械(6.7%減)がマイナスとなり、0.3%減となった。②22.3%を占める中国向けでは、産業機械(12.5%増)、自動車(16.6%増)がプラスとなったものの、電子デバイス(8.2%減)、電池等軽電気機械(3.9%減)、光学機械(9.4%減)等がマイナスとなって0.1%増とほぼ横這いとなり、③15.7%のASEAN・南アジア向けは、インド(21.3%増)、インドネシア(21.2%増)等が大きく増加し、業種では、産業機械(8.3%減)等がマイナスとなったものの、自動車(4.4%増)、電子デバイス(16.6%増)等がプラスとなって2.3%増となった。④11.5%を占めるEU向けは、産業機械(2.7%増)等がプラスとなったものの、約34%を占める自動車(15.8%減)等が減少し、6.7%減となり、⑤9.8%を占める韓国・台湾向けは、産業機械(6.7%減)、電子デバイス(3.8%減)、自動車(7.5%減)等が減少して7.0%減となった。⑥15.8%のその他地域向けでは、大洋州(10.7%減)、中近東(4.8%減)向けがマイナスとなり、機種では、船舶(約22.2%増)等がプラスとなったものの、自動車(6.1%減)、産業機械(2.8%減)がマイナスとなって2.8%減となった。

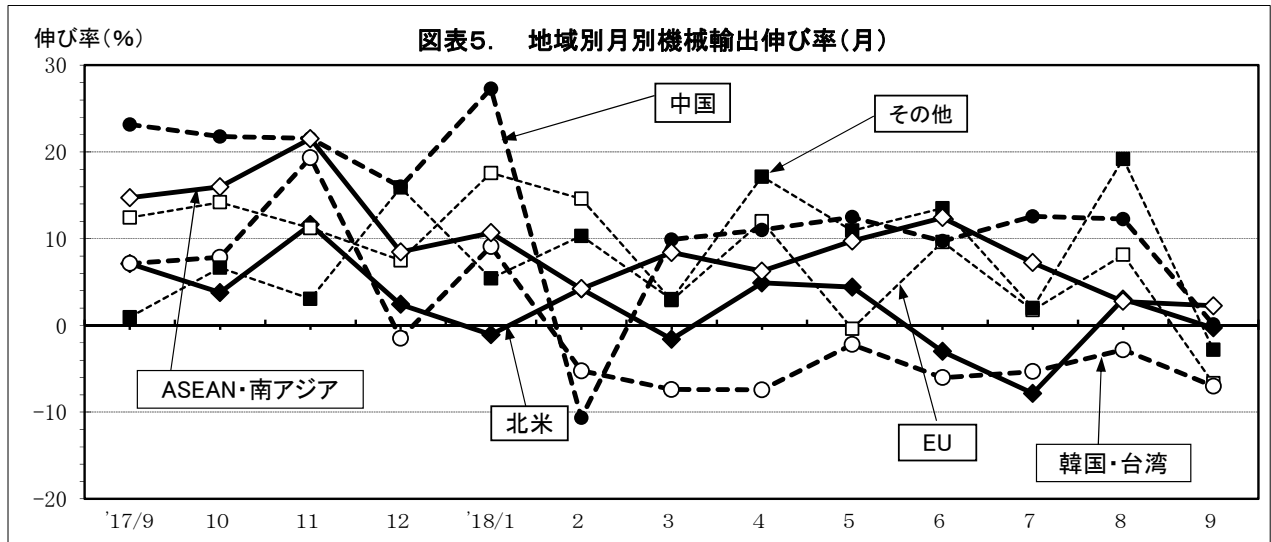
2) また、リーマンショック前の2007年9月の地域別輸出額と比較すると、ASEAN・南アジア、中国向けが100%を超え、韓国・台湾向けが90%台、北米向けが80%台、その他地域向けが70%台、EU向けが60%台となった。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位: 億円)

	2018/7			2018/8			2018/9			対07年 9月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	43,223	1.6	100.0	42,893	7.4	100.0	43,374	▲ 1.7	100.0	0.86
北米	10,360	▲ 7.8	24.0	10,154	3.0	23.7	10,787	▲ 0.3	24.9	0.85
中国	10,213	12.6	23.6	10,293	12.3	24.0	9,682	0.1	22.3	1.08
ASEAN・南アジア	6,696	7.2	15.5	6,505	2.8	15.2	6,797	2.3	15.7	1.09
EU	5,053	1.7	11.7	4,981	8.1	11.6	5,002	▲ 6.7	11.5	0.61
韓国・台湾	4,250	▲ 5.3	9.8	4,149	▲ 2.8	9.7	4,243	▲ 7.0	9.8	0.90
その他	6,652	2.0	15.4	6,810	19.2	15.9	6,863	▲ 2.8	15.8	0.73

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。

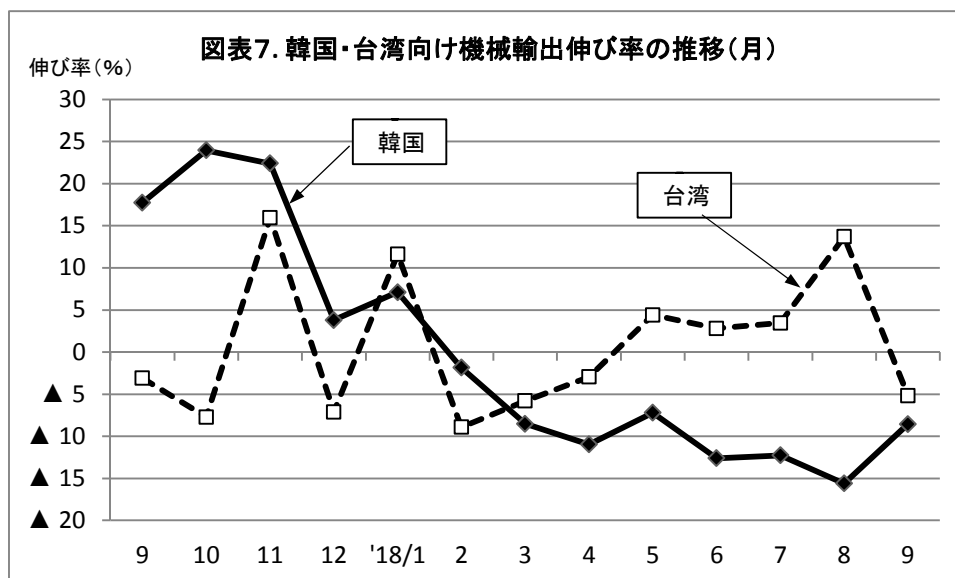


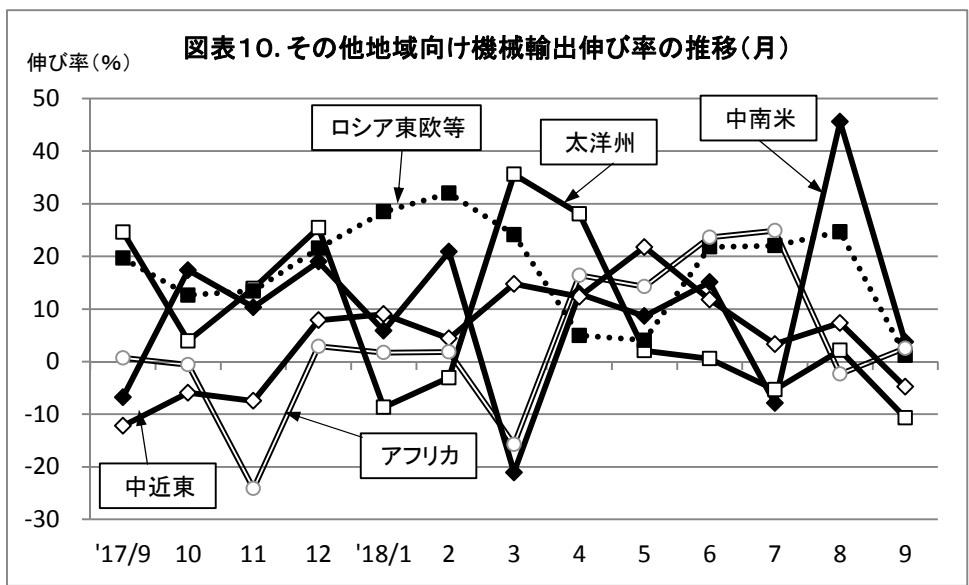
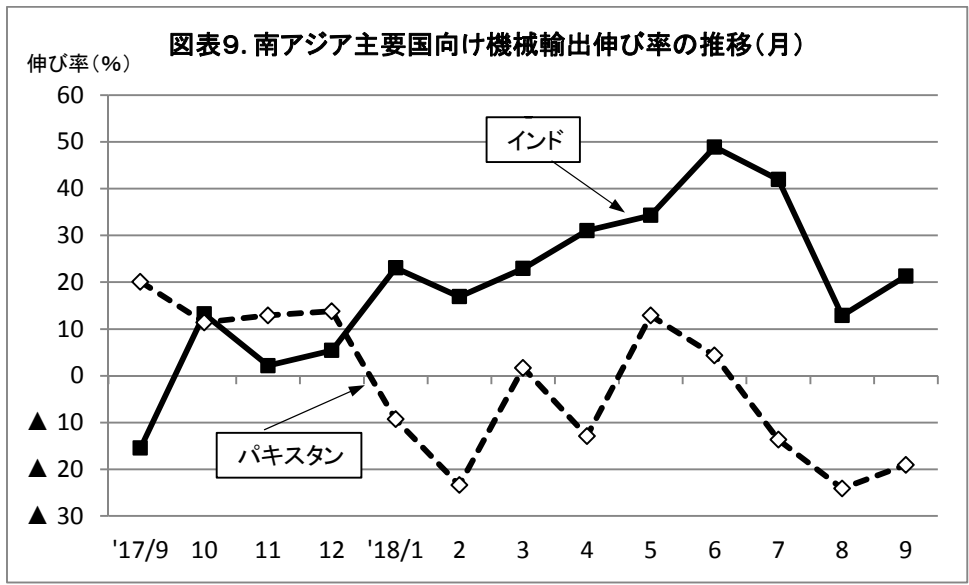
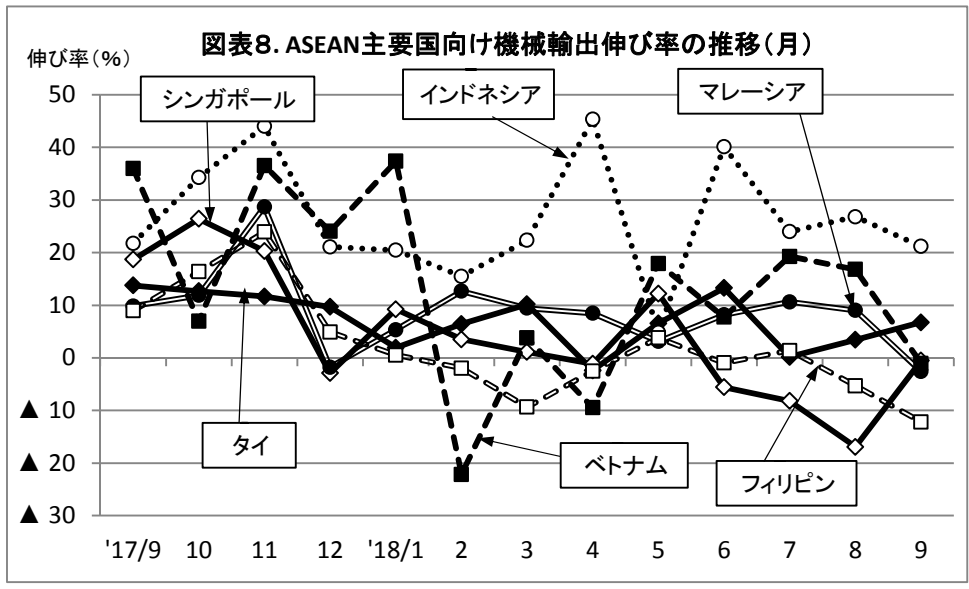
図表6. 韓国・台湾/ASEAN・南アジア/その他地域向け機械輸出の推移(月別)

(金額単位:億円,%)

国名	2018/6		2018/7		2018/8		2018/9	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	2,335	▲ 12.6	2,200	▲ 12.3	2,028	▲ 15.6	2,250	▲ 8.6
台湾	2,046	2.8	2,050	3.5	2,121	13.7	1,993	▲ 5.2
ASEAN・南アジア								
タイ	1,784	13.3	1,662	0.2	1,588	3.4	1,860	6.7
シンガポール	902	▲ 5.6	882	▲ 8.2	953	▲ 16.9	939	▲ 0.5
インドネシア	957	40.1	980	24.0	917	26.8	976	21.2
マレーシア	715	8.2	745	10.6	698	9.0	683	▲ 2.6
フィリピン	687	▲ 1.0	692	1.4	627	▲ 5.3	617	▲ 12.2
ベトナム	778	7.7	793	19.2	845	16.8	844	▲ 1.0
インド	613	48.9	574	41.9	529	12.8	504	21.3
パキスタン	160	4.3	146	▲ 13.7	130	▲ 24.1	151	▲ 19.0
その他地域								
中南米	2,497	15.1	2,084	▲ 7.9	2,364	45.6	2,269	3.7
中近東	1,764	11.8	1,409	3.3	1,513	7.3	1,727	▲ 4.8
大洋州	1,379	0.5	1,374	▲ 5.3	1,205	2.2	1,224	▲ 10.7
ロシア東欧等	1,206	21.8	1,199	22.0	1,159	24.7	1,149	1.2
アフリカ	695	23.6	591	24.9	526	▲ 2.4	543	2.5

▲は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)





(4)業種別動向～21業種中7業種がプラス。うち船舶等3業種が二桁の増加～

- 1)業種別では、船舶(11.5%増)、工作機械(10.7%増)をはじめ7業種がプラスとなり、前月に比べて8業種減少した。そのうち、船舶(11.5%増)、工作機械(10.7%増)、陸用内燃機関(12.8%増)の3業種が二桁の伸びとなったが、機械全体では1.7%減となった。
- 2)リーマンショック前の水準を超えたのは航空機部品、軽機械、ベアリング等8業種となった(8月は12業種)。他方、電子計算機、民生用電子機械が30%台の低い水準にある。

図表11 上位21業種の輸出額の動き

(単位:億円、%)

2018/7				2018/8				2018/9				対07/9 比
業種名	金額	伸び率	シェア	業種名	金額	伸び率	シェア	業種名	金額	伸び率	シェア	
自動車	14,876	▲1.5	34.4	自動車	14,022	4.6	32.7	自動車	15,204	▲2.3	35.1	0.89
産業機械	7,975	3.9	18.5	産業機械	8,167	11.9	19.0	産業機械	7,569	▲0.9	17.5	1.003
電子デバイス	3,629	7.9	8.4	電子デバイス	3,645	3.8	8.5	電子デバイス	3,470	▲1.9	8.0	0.73
軽電気機械	2,507	4.4	5.8	軽電気機械	2,465	4.8	5.7	軽電気機械	2,546	▲1.7	5.9	0.95
重電気機械	2,274	9.7	5.3	重電気機械	2,280	13.9	5.3	重電気機械	2,213	▲3.4	5.1	1.01
軽機械	1,741	5.5	4.0	軽機械	1,695	3.0	4.0	軽機械	1,740	0.0	4.0	1.22
民生用電子機械	1,516	7.6	3.5	民生用電子機械	1,514	5.1	3.5	民生用電子機械	1,564	0.1	3.6	0.39
建設機械	1,238	16.4	2.9	船舶	1,436	37.3	3.3	船舶	1,362	11.5	3.1	0.77
光学機械	1,218	▲5.0	2.8	光学機械	1,365	▲5.1	3.2	光学機械	1,323	▲4.6	3.1	1.004
船舶	1,085	▲25.4	2.5	建設機械	1,222	28.4	2.8	建設機械	1,101	▲12.4	2.5	0.83
工作機械	851	4.6	2.0	工作機械	776	▲2.2	1.8	工作機械	854	10.7	2.0	0.95
航空機部品	670	▲4.7	1.6	航空機部品	666	0.6	1.6	航空機部品	752	7.2	1.7	1.98
通信機械	540	▲3.5	1.3	通信機械	587	▲6.9	1.4	通信機械	599	▲21.3	1.4	0.57
医療機械	481	3.7	1.1	医療機械	457	9.3	1.1	医療機械	547	8.0	1.3	1.16
電子計算機	455	1.4	1.1	電子計算機	433	▲9.6	1.0	電子計算機	479	▲5.8	1.1	0.38
ベアリング	430	0.8	1.0	陸用内燃機関	432	20.2	1.0	陸用内燃機関	449	12.8	1.0	1.17
陸用内燃機関	421	5.6	1.0	ベアリング	401	3.3	0.9	ベアリング	405	▲6.1	0.9	1.19
繊維機械	191	▲7.3	0.4	鉄道車両	227	241.4	0.5	農業機械	199	▲1.3	0.5	0.95
農業機械	178	▲6.8	0.4	繊維機械	207	▲1.5	0.5	繊維機械	176	▲16.2	0.4	0.74
鉄道車両	147	17.7	0.3	農業機械	163	▲4.5	0.4	産業車両	124	▲2.6	0.3	0.58
産業車両	137	12.3	0.3	産業車両	114	6.2	0.3	鉄道車両	94	▲3.5	0.2	0.96
21業種合計	42,562		98.5	21業種合計	42,276		98.6	21業種合計	42,678		98.4	0.86

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・産業機械:半導体製造装置、印刷・製本機械、風水力機械、タービン
 ・民生用電子機械:デジカメ、TV、部品 ・電子計算機:パソコン、HDD・プリンター等部品 ・軽機械:試験・検査機、理化学用機器
 ・軽電気機械:白物家電、電子計測器、配電機器、電池 ・光学機械:その他の光学機器(半導体検査装置、レーザー等)、カメラ部品
 ・通信機械:通信機械部分品、受信変換・その他送受信機器

(5)機種別動向～陸用内燃機関、船舶、時計、工作機械が大幅増加、通信機械部分品等が大幅減～

- 1)10%以上の伸び率を示した4機種は、①北米、EU、中国向け陸用内燃機関(12.8%増)、②その他地域向け船舶(11.5%増)、③中国向け時計(11.4%増)、④北米、中国、ASEAN・南アジア向け工作機械(10.7%増)であった。
- 2)一方、最も落ち込み幅が大きいのが、通信機械部分品(35.5%減)、原動力機械(33.5%減)、発電機(30.1%減)等であった。

図表12. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内) (単位:億円、%)

2018/7			2018/8			2018/9		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
鉄道車両	147	17.7	鉄道車両	227	241.4	陸用内燃機関	449	12.8
コンデンサー等部分品	972	17.2	原動力機械	474	56.5	船舶	1,362	11.5
建設機械	1,238	16.4	船舶	1,436	37.3	時計	97	11.4
半導体製造装置	2,203	13.7	半導体製造装置	2,538	34.3	工作機械	854	10.7
電気・電子計測器	462	13.0	建設機械	1,222	28.4	機種合計	2,762	*6.4%
電池	528	12.4	陸用内燃機関	432	20.2			
産業車両	137	12.3	磁気カード・ディスク等	143	13.4			
試験・検査機	635	10.7	電気・電子計測器	439	12.6			
機種合計	6,322	*14.6%	電動機	180	11.5			
			その他の配電制御装置	1,055	10.6			
			機種合計	8,146	*18.9%			

は、2ヶ月連続で上位機種 * 機種合計の%は輸出額に占める割合
 通信機械部分品:ゲートウェイ、リピーター等 受信変換・その他送受信機器:ルーター、LANスイッチ等ネットワーク関連機器

図表13. マイナス伸び率上位機種(月10億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位: 億円、%)

2018/7			2018/8			2018/9		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
船舶	1,085	▲ 25.4	通信機械部分品	246	▲ 29.6	通信機械部分品	271	▲ 35.5
通信機械部分品	209	▲ 19.8	産業用ロボット	162	▲ 15.9	原動力機械	321	▲ 33.5
産業用ロボット	185	▲ 12.6	金属加工機械	242	▲ 12.2	発電機	64	▲ 30.1
機種合計	1,479	* 3.4%	デジカメ・ビデオ	263	▲ 11.6	受信変換その他送受信機器	96	▲ 28.9
			機種合計	913	* 2.1%	産業用ロボット	173	▲ 21.6
						携帯電話	27	▲ 17.5
						貨物自動車	720	▲ 16.5
						繊維機械	176	▲ 16.2
						その他の重電気機器・部分品	471	▲ 14.3
						建設機械	1,101	▲ 12.4
						機種合計	3,420	* 7.8%

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位内 * 機種合計の%は輸出額に占める割合

(6) 機械輸入動向～携帯電話、乗用車等がプラス、電子デバイス、電子計算機等がマイナス～

- 1) 9月の機械輸入伸び率は0.5%減と3ヶ月ぶりにマイナスとなった。上位12機種のうち5機種がプラスとなり、そのうち携帯電話(28.9%増)、乗用車(15.5%増)、半導体製造装置(約2.3倍)の3機種が二桁以上のプラスであった。マイナスとなったのは、電子デバイス(5.6%減)、電子計算機(13.5%減)、自動車部品(2.0%減)をはじめ、7機種であった。
- 2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は金額順に携帯電話、電子計算機、航空機・部品等、白物家電、医療機械、配電機器、受信変換その他送受信機器、時計、TVの9機種となっている。
- 3) 地域別機械輸入額は、全体の41%を占める中国(4.6%増)、EU(3.0%増)、ASEAN・南アジア(2.7%減)、北米(10.7%減)、韓国・台湾(6.8%減)、その他地域(0.3%増)の順であった。

図表14. 機械輸入額上位12機種

(単位: 億円、%)

2018/7				2018/8				2018/9			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	2,487	3.3	11.5	電子デバイス	2,270	▲ 4.1	10.8	電子デバイス	2,323	▲ 5.6	11.2
電子計算機	1,792	▲ 10.3	8.3	電子計算機	1,819	1.6	8.7	携帯電話	2,172	28.9	10.5
航空機・部品等	1,609	40.3	7.5	航空機・部品等	1,739	86.1	8.3	電子計算機	1,648	▲ 13.5	8.0
自動車部品	1,273	6.0	5.9	自動車部品	1,147	0.9	5.5	乗用車	1,233	15.5	6.0
携帯電話	1,143	19.0	5.3	乗用車	1,089	▲ 7.1	5.2	自動車部品	1,196	▲ 2.0	5.8
乗用車	1,041	32.2	4.8	携帯電話	1,029	91.2	4.9	航空機・部品等	1,017	▲ 18.4	4.9
白物家電	852	11.2	3.9	白物家電	734	13.8	3.5	白物家電	640	7.9	3.1
医療機械	658	3.2	3.1	医療機械	644	▲ 2.0	3.1	医療機械	629	▲ 7.9	3.0
配電機器	610	4.6	2.8	受信変換その他送受信	633	8.7	3.0	半導体製造装置	618	127.9	3.0
受信変換その他送受信	594	4.2	2.8	配電機器	598	5.8	2.9	配電機器	563	1.5	2.7
その他の配電制御装置	417	▲ 5.0	1.9	半導体製造装置	578	51.9	2.8	受信変換その他送受信	536	▲ 5.9	2.6
コンデンサー等部分品	405	10.8	1.9	コンデンサー等部分品	404	6.9	1.9	その他の配電制御装置	377	▲ 12.3	1.8
12機種合計	12,881		59.7	12機種合計	12,684		60.6	12機種合計	12,952		62.6

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。・白物家電: 民生用電気機械

・受信変換その他送受信機器: ネットワーク関連機器 ・その他の配電制御装置: スイッチ、配電盤、制御盤等